馬耳東風

2024年9月3日環境省が鹿児島県奄美大島で外来生物のマングースを根絶したことを宣言した．奄美大島にマングースが放されたのは1979年頃で，島民を悩ます毒蛇ハブと農作物を荒らすネズミを駆除するのが目的であった．放されたマングースには天敵がいないため，次第に生息域を拡大し，1999年には約1万頭にも増加したといわれる．昼行性のマングースは，夜行性のハブと出会う機会が少なく，養鶏や農作物を荒らした他，アマミノクロウサギやケナガネズミなどの島在来の希少種を襲うようになった．そこで名瀬市（現奄美市）は1993年より有害鳥獣としてマングースを捕獲する事業を開始し，2000年からは国及び県も取り組みを本格化させた．

2005年には特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）が作られ，マングースが特定外来生物に指定された．同年駆除のプロとして12名からなる「奄美マングースバスターズ」が組織された．その活動は，ワナやその餌等を工夫し，3万個を超えるワナを仕掛け捕獲を進めると同時に，自動撮影カメラで生息情報を収集するなど緻密で根気のいるものであった．2007年からはマングースを探して穴などに追い込む生体探索犬と，マングースの糞を探してマングースがいるかどうかを調べる糞探索犬が導入された．この探索犬は，マングースが少なくなった中での効果的な捕獲や，マングースの根絶に向けてマングースがいないことを確かめるために大きく貢献した．

1993年からのマングースの捕獲数は，3万2千頭を超え，2018年に捕獲されたのが最後となった．その後の生息個体の調査，アマミノクロウサギ等の在来生物数の増加等を踏まえ根絶という評価がなされた．世界ではこれまでにマングースの根絶に成功した島は9島あり，その最大面積は115ヘクタールであるが，奄美大島は遥かに広く71,200ヘクタールもあり，世界初の成果と誇れるものである．マングースの根絶に関与された機関と関係者に敬意を表したい．

一方で，マングースを奄美大島に導入し問題を引き起こしたのは人間であり，殺されたマングースはむしろ被害者ともいえる．特定外来生物に指定されているアライグマも，1970年代に日本でアライグマが主人公のアニメが放送され，その愛くるしさからペットとして飼育されるようになったが，もともと気性の荒い動物であることから捨てられたり，逃げ出したりしたものが野生化した．やはり天敵のいないアライグマは，生息数と生息地を拡大している．例えば，北海道では今年3月現在で93%に当たる166市町村で生息が確認され，2022年度の捕獲数が2万6千頭を超えており，農作物の被害額は1億4千万円にも上るという．アライグマは，狂犬病を媒介することから今のうちに捕獲を進めておく必要がある．

現在，特定外来生物として162種類が指定されているが，いずれも人間が持ち込んだり，人間の活動に伴って侵入してきたものである．特定外来法では，「入れない」，「捨てない」，「拡げない」を外来種による被害を予防する三原則としている．少なくともこのうち「入れない」と「捨てない」は個々人の努力でできることである．日本の自然の多様性を守るためにも外来種の侵入を防ぎたいものである．（平）